

南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山昌一氏)

## 耳目開明

「奇跡の人」と呼ばれたヘレン・ケラーは、二歳の時に高熱にかかり、医師や家族の懸命な治療によって一命は取り留めたものの、聴力・視力、そして言葉を奪われてしまった。いわゆる三重苦といわれる障害を抱えてしまった彼女だが、家庭教師として迎えたアン・サリバン女史と血のにじむような努力の末に、会話する技術を身につけるまでになった。

彼女は先生との出遇いを通じて「私にとって大切なのは、いま一人の私が必要なのです。いま一人の私とは、私の目となり、耳となってくれる人でなければならぬのです」といわれる。「いま一人の私」ことは、彼女が艱難辛苦を乗り越えて習得した能力のことではなく、自分を支えてくださった、かけがえのない先生によって導かれたご恩に深く感謝された言葉ではないだろうか。

感染の凡夫といわれる私は、自分の目で捉え、耳で聞いたことが確かなものだと思わず、これまで培ってきた経験にどこまでも執着してしまう。耳目開明とは、自己関心という殻の中に閉塞している我が身の空しさを知らされ、あらゆる人々と共にある世界を生きていることに目覚めさせる仏のはたらきである。それはどこまでも自我意識に舞い戻ってしまう私の目となり、耳となり続けてくださる阿弥陀仏の大悲、心なのである。

(木村 専正 記)





## 5ブロック主催旅行『信州の旅』のご案内

先月ご案内いたしました「5ブロック主催旅行」でございますが、久しぶりに旅行を企画させていただきました。総代会や評議員会、そして旅行委員会の方々にご協力をいただき、皆様に喜んでいただける、充実した内容になっております。

すでにたくさんの方からお申し込みいただいておりますが、募集人員にまだ若干の余裕がございます。ご家族やご友人をお誘い合わせの上、是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。

### 記

期 日 **平成27年5月21日(木)～22日(金)** 1泊2日  
費 用 24,800円 (昼食2回、夕食1回、朝食1回、夕食時は飲物含む)  
行 程(貸切バス)

#### 5月21日(木)

7:30 出発 JR 上野駅公園口広場＝8:00 出発 西徳寺＝(中央道)＝  
11:00 着 国宝松本城 11:45 出発＝12:00～13:00 昼食(松本市内)＝  
13:30 着 安曇野大王わさび農場 14:30 出発＝  
16:00 着 **蓼科グランドホテル「滝の湯」**(会食 19:00)

#### 5月22日(金)

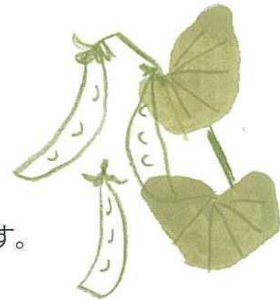
8:30 出発 ホテル＝10:30 着 善光寺 11:30 出発＝11:40～12:40  
昼食(長野市内)＝13:15 着 戸隠神社 13:50 出発＝14:40 着小布施  
15:20 出発 =(関越道)=19:00 JR 上野公園口広場  
＝19:30 西徳寺 着

募集人員 70名

申込方法 ハガキでお申込み下さい。(申込みは先着順)

締切日 **4月30日**(満員次第)

※費用支払い方法、旅程表などは参加者の方へ後日お知らせします。



## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

大阪府	最勝寺 様	品川区	木原 麗子 様
新潟県	梵行寺 様	愛知県	西村 知津 様
横浜市	酒井 義光 様	越谷市	小林 清蔵 様



# 親鸞さんのことば

「親鸞におきては、ただ念仏して  
弥陀にたすけられまいらすべしと、  
よきひとのおおせをかぶりて  
信ずるほかに別の子細なきなり。  
〔歎異抄〕」

松井憲一

これは、関東から京都まで訪ねてこられたお同行たちの、「本当にお念仏一つで救われますか」との問いに  
応えられた、親鸞聖人のお言葉です。  
ここで、「ただ念仏して」というのは、  
念仏でも称えようかという念仏では  
ありません。若い時は、金や権力や  
名誉を追い求め、それが役に立たな  
いようになってから、やはり念仏だ  
というのは、都合のいい方に乗り換  
えただけですから「ただ念仏」では  
ありません。教えを聞いて、楽になり  
たいと念仏するのは、とんでもない  
間違いであつたと、一八〇度ひっくり  
返されるのが「ただ念仏」のすがたな  
のです。

親鸞聖人は、救いを求めて二十九歳の時に二十年間の比叡山の学問と修行を断念して里に出られ、聖徳太子ゆかりの六角堂に百日参籠します。その九十五日目のあけ方に夢告を受け、法然上人を訪ねます。そして、法然上人の吉水の草庵で、また百日「降るにも照るにも」欠かさず、ひたむきな聞法を続けられました。そこで領かれたのが、法然上人の「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」という教えでありました。

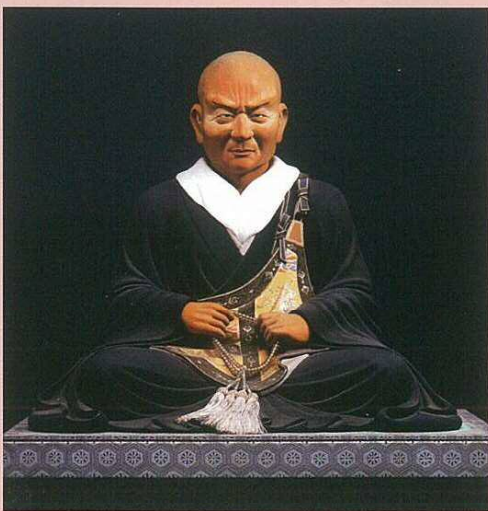
人は、多くの出遇いをいただいて成長します。その中でも、苦しみ悩む生活は自分を中心にする、意識できない深い迷いがあると教えて、大いなるまことの願いに生きよと導く「師」との出遇いほど、すばらしいものはありません。聖人は、法然上人のすべてを平等に救う阿弥陀如来のはたらきにお任せしてお念仏される姿に出遇い、「念仏もうさんとおもいたつ心」がおこつて、「ただ念仏」する生活を尽くされました。念仏して深きいのちのはたらきに目覚めた聖人は、生涯、法然上人を「よきひと」と仰いで、この「ただ念仏」の教えに励まされ、応える人生を生きたりました。

だから、八十歳を過ぎられた聖人は、長い旅をしていのちがけて訪ねてこられたお同行に、五十年前のことを昨日の出来事のように、「この親鸞においては、ただ念仏して弥陀にたすけられよという、よき人のおおせを聞いて信じているだけで、このほかに特別な理由はありません」と、実名を名告つて、はじめて阿弥陀仏に任せられた時の、法然上人との出遇いの感動を、語られたのです。

これに続いて、聖人は「ただ念仏して」あらわになったわが身の信念を「たとい、法然聖人にすかされまいらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずそうろう。そのゆえは、自余の行もはげみて、仏になるべかりける身が、念仏をもうして、地獄にもおちてそうらわばこそ、すかさずらわめ。いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」といわれます。この「いずれの行もおよびがたき身」という懺悔しかな一句を聞かれたお同行は、そうだ「ただ念仏」であつたと、

再び領いて、帰省されたのでしよう。

長年教えを聞いていると、自我の深さがつねに教えられ、一人よがり  
で聞いてきた姿が次々と暴露され  
ます。そのどの言葉を聞いても、た  
だ一言の教えとなつて響くのが、「た  
だ念仏して、弥陀にたすけられま  
いらすべし」の内容であります。「ただ  
念仏して」と聞こえれば、今の自分  
を受け取れない自己弁護や責任回  
避は、妄想と気づかされます。すべ  
ては大いなる世界にお任せの人生で  
ありましたと、もう一度人生を再認  
識して立ち上げられます。それが、親  
鸞聖人に教えられる「ただ念仏し  
て」の道でありましよう。





# 山門の言葉

## 知らないから聞くのだ

ふかざわ しちろう  
深沢 七郎



人と話しをしていると、知らない言葉がぼつりぼつりと飛び出して来る。知らないのだから尋ねればいいのだが、何となく恥ずかしくて言い出せない。言い出せないまま知ったかぶりをしている、思わぬ失敗をしてしまったことがよくあるが、その度にこの言葉を思い出す。

深沢七郎氏（一九一四年―一九八七年）は元々ギタリストであったのだが、小説「檀山節考」を書いたところ第一回中央公論新人賞を受賞し、突如文壇デビューを果たした方である。突然の出来事に彼自身が最も驚き、同時に周りの先生方に尋ね続ける日々が始まったのであった。

ところが、深沢氏が尋ねれば尋ねるほど、周りの方々からは「君は何にも知らんな」と笑われてしまう。そのたびに「言わなければよかった」と後悔するのであるが、反面、ある方に「知らないから聞くのだ。誰だって、はじめから知ってる奴があるものか」と述べられるように、知ったかぶりをせず尋

ね続けた人生を過ごされた。そういう彼を周りの方々は呆れながらも愛していたようだ。それは、恥ずかしい思いをしながらも、一生懸命に人から教えを請うた姿から感じるのである。

深沢氏の言うように、私達は生まれたときは何も知らなかった。今まで身につけた知識は、全て家族や周りの方から教わったことである。にも関わらず、さも自分の力で身につけたものだと思いつつ、今さら人に聞けない、聞いたら恥ずかしい」と人に尋ねないのが私達である。

仏様の教えに触れた人はこのような私達自身の姿を明らかにし、また同時に仏様の声を聞けと勧められる。深沢氏の言葉を通せば、人に尋ねよということであろう。知ったかぶりをする癖はなかなか治らないけれども、人に尋ね、考え、これからどう生きていくのかを明らかにせよ。それが生きる意義だと、深沢七郎氏の姿から感じるのである。

（高橋 淳 記）

## 日誌

2月16日～20日	本山・第十次聞法推進員養成研修会 (山崎・大橋参加)	3月2日～9日	木村主任 新潟県四組 差向布教 派出
2月18日	『唯信鈔』に聞く(第10回) 講師 宗 正元師	3月4日	仏具磨き(参加者13名)
2月21日	定例聞法会 評議員会定例役員会 混声合唱団「エコー」練習	3月7日	混声合唱団「エコー」練習
2月22日	城南ブロック会聞法会 (大田区・ホテル東京イン 参加者17名)	3月7日・8日	中興忌
2月24日	仏教青年会座談会	3月8日	城北ブロック会聞法会 (王子・北とびあ 参加者19名)
2月25日	五ブロック主催旅行委員会	3月9日	東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
2月27日・28日	宗祖忌	3月10日～14日	岸本住職 新潟県三組春 差向布教 派出
2月28日	同行会「現代の聖典」に聞く 法話 大橋 伊知郎	3月10日	仏教青年会レクリエーション「寄席の会」 (上野鈴木演芸場 参加者26名)
		3月11日	婦人会聞法会 「釈尊伝」に聞く
		3月13日	『唯信鈔』に聞く(第11回) 講師 宗 正元師
		3月14日	定例聞法会、混声合唱団「エコー」練習 同行会「現代の聖典」に聞く 法話 木村主任



毎月「えこお」等をお送りいただき有難うございます。もう20年以上もの長きにわたり送り続けていただき、深く感謝申します。

毎号読む度、どこかでハッと思うことがあり、その時は我が身を振り返り、気持ち引きしまります。しかし、切っても切っても同じ顔の出てる金太郎飴の如く、傲慢が出てきます。皮を剥いても剥いても、心まで達してもまだ「私が、私が」という業の深さです。その根深さに唖然とする有様です。

今後もお送りいただけたら幸せです。ほんの些少ですが、通信費の足しにでもしていただけたら嬉しいです。

(名古屋市 西村 知津 様)

3月に入り、すっかり春らしくなって参りましたのに、また冷たい雨が続き体がついていきませんが、おかげさまで元気にフルタイムで働いております。

早いもので母が亡くなりましてから30年になり、だんだん母が亡くなった年齢に近づきますが、思いはまだ子供です

本日は心ばかりをお送りいたします。今後ともよろしく願い申し上げます。

(中野区 筒井 峰子 様)

## 読者の声

拝啓

寒い寒いと言いながらも、梅が咲き、木々の芽がふくらんで春の訪れを感じる今日この頃でございます。

御住職様始め、皆様様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。お変わりなくお勤めのことと存じ上げます。

さて、春のお彼岸が近づいてまいりました。大変失礼ではございますが、今回もお布施を郵送させていただきます。よろしく願い申し上げます。

天気や気温の変化が多い時期でございます。皆様、お身体をご自愛されますよう、お祈り申し上げます。

敬具

(藤市 土居 大成 様)

いつもお世話になり、ありがとうございます。又、3月もお彼岸を迎える月となりました。私も今年のお正月は先祖のお墓参りにも行く事が出来ずに甥にお願いしておきました。

現在、私の母(姑)が96才ですが施設に入所しており、今月に入ってから急性大腸炎で入院しました。何より高齢と認知症のため、24時間の介護が必要なため、私と主人と交代で見守っている次第です。まだ退院の見込みがなく、母が元気になって下さる事を願っています。

西徳寺様にはお参りにも行けず、申し訳なく思っている次第です。母が元気で又元の生活になれば・・・と思う毎日です。お花代として気持ですが、送付させていただきます。

春とはいえ、まだまだ寒暖の差が有りますので、西徳寺の皆様、お身体にお気をつけ下さいませ。

(蓮田市 谷 久子 様)

## 境内だより

平成25年の10月城東ブロック会間法会懇親会の席で坊守が、「山門前の植え込みでガーデニングを始めたので、私一人では力もないし、余り進展しないのでどなたかお願いできませんか」と言いましたところ、長尾さんに手を挙げていただき、季節の植え替えとか、折りにふれ、お手伝いいただいております。

昨年の10月頃から寺務所前の庭を整備したいと考えておりましたが、11月境内の第二会館の前に置いてあった石を寺務所前に移動し、12月に杉苔と石を市松模様にし今までとかなりイメージの異なった庭になったと思っております。ここまでは長尾さんと坊守・女子職員の少人数で作業をしておりましたが、思いがどんどん膨らんで、目標が達成できず、先延ばしにすることばかりになっておりました。

今年の春のお磨き(3月4日)で、困っていることを皆さんにお話したところ、「お磨き」の後4人の方(城東の長尾さん、中央の鈴木弘子さん、金子桂子さん、城南ブロックの橘悦子さん)に残っていただき、南側水屋と焼却炉の間のお庭の清掃を丁寧にお掃除していただきました。

3月9日の城北ブロック法会で加藤晃司さんに約束をもらい、3月13日(午前中)は城東の長尾さん、中央の鈴木弘子さん、城北の加藤晃司さんで引き続き南側水屋横に植えてあった彼岸花の球根を掘り起し、玉石の水洗い・金銀木犀の下に彼岸花植え替えをしました。

3月16日(午前・午後)は城東の長尾さん、中央の鈴木弘子さん、金子桂子さん、城北の加藤晃司さんご夫妻、城南の橘悦子さんでお彼岸前の清掃を重点にと境内・山門・縞大名竹のプランター・国際通り植え込みの草引き・清掃をしていただきました。

かなり力を入れていただきましたので、境内はピカピカにお荘厳ながらに輝いて見えました。

境内には季節ごとに美しい樹木が植わっておりますが、皆様には手をかけていただき、皆様に見ていただきたいとお越しをお待ちしております。

合掌

坊守



# 掲示板

平成27年4月

- 4日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
5日(日) 午後2時 中央ブロック会間法会  
(湯島天神 梅香殿)  
11日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 蓮井 邦宗  
14日(火) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第12回)  
講師 宗 正元師  
15日(水) 午前11時 婦人会総会  
16日(木) 午後4時 総代会  
18日(土) 午後1時半 定例間法会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
25日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 仲井 真裕  
28日(火) 午後7時 仏教青年会総会  
30日(木) 午後2時 東京教区研修会(西徳寺)

## 青年会レクレーション 寄席の会

3月10日に「寄席の会」と題した仏教青年会レクレーションが上野・鈴木演芸場にて行われました。寄席の観覧は榎本青年会会長の熱い要望により、この度3回目の実現となりました。当日は風が強く非常に寒い日となりましたが、26名という大勢の参加者が集まりました。

今回は古典落語・漫才・太神楽曲芸・紙切りを観覧することが出来ました。その中でも紙切り芸は、おもしろおかしい小話と見事なハサミさばきで作品を作り上げていました。また、「醍醐の桜」や「習字」といった題目からは想像の出来ないリクエストが挙げられましたが、紙切り師は困惑しつつも即興に応え、会場を大いに沸かせていました。

## 城北ブロック会

去る3月8日(日)、王子北とびあにおきまして、城北ブロック会間法会を開催いたしました。今回は15名の会員の方に出席していただきました。

法話では、「念仏者のすばらしさ」というテーマで、「獲信」という言葉を取り上げられました。信心を獲るということは、ただ受け身としていただくだけでなく、つかまえて手に入れるというように、実は非常に積極的な意味もふくまれていることを教えていただきました。

懇親会では、恒例になりつつある食前、食後の言葉をみなさんと唱和し、普段忘れていた食事への感謝を再確認し、有意義な懇親会となりました。

次回は平成27年6月14日(日)、川口リリアにおきまして総会・間法会を開催いたします。テーマは「信じることの難しさ」です。大勢の方の参加をお待ちしております。(蓮井 邦宗 記)



## 城南ブロック会

去る2月22日(日)、ホテル東京イン(馬込)に於きまして、第87回間法会を開催しました。参加者は18名で、間法会から懇親会まで活気ある回となったように思います。

次回は5月17日(日)午後2時より「大井町きゅりあん」にて間法会を開催致しますので、是非ご参加下さい。(大橋 伊知郎 記)

## 編集後記

桜は日本を代表する樹木で、古来から人々に愛され、桜の下での花見は現代でも盛んです。かつては秀吉が「吉野の花見」や「醍醐の花見」を催したように、上流階級に限られたものでしたが、八代将軍・吉宗の頃から庶民も楽しめるようにと、隅田川や上野公園、飛鳥山など各地に桜の木を植えたそうです。

いよいよ春本番を迎えます。来月行われる5ブロック旅行に参加希望の方は、是非ともお申し込み下さい。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

[HP http://saitokuji.tobihiro.jp/](http://saitokuji.tobihiro.jp/)

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
(メールでも結構です)

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)